

つぎはつ

第36号

発行責任者

〒062-0051 札幌市豊平区月寒東1条3丁目
北海道札幌月寒高等学校内 北海道札幌月寒高等学校同窓会
TEL (011)851-3111・FAX (011)851-3112 <http://www.tsukisappu.com>

●印刷所 (株) 辻 孔 版 社

題字：中川清風先生

現住所・幹事等の
変更連絡について
現住所・幹事等に変更が
あった場合は札幌月寒高校
同窓会事務局宛ご連絡くだ
さい。

ところで、今年母校は創立70周年を迎え、先だって記念式典を、カナモトホールで開催しました。全校生徒はもとよりたくさんの保護者の方、協賛会関係、同窓会のみなさんなどが参集し、ホールを満席にして終えることができた。参加された皆さんには記憶に新しいことと思う。第一部は式典としての厳粛さを、第二部では芸能界で活躍する同窓のMCで、在校生も参加して創立を祝いました。皆さんの記憶に残るものになったと思います。それを可能にしたのは、間違いなく月高の校風がベースにあっ

たところ、今年母校は創立70周年を迎え、先だって記念式典を、カナモトホールで開催しました。全校生徒はもとよりたくさんの保護者の方、協賛会関係、同窓会のみなさんなどが参集し、ホールを満席にして終えることができた。参加された皆さんには記憶に新しいことと思う。第一部は式典としての厳粛さを、第二部では芸能界で活躍する同窓のMCで、在校生も参加して創立を祝いました。皆さんの記憶に残るものになったと思います。それを可能にしたのは、間違いなく月高の校風がベースにあっ

たまたま人生の一時期、月寒高校で過ごしたということが、何かしら意識の中に蓄積され時間を超えて再確認するというもの。たとえば、会社で互いに月高生とわかった瞬間、年齢や経験に関係なく、昔から友人であったような仲間に変わることがある。その瞬間、時間は一挙に昔に戻り、楽しく懐かしいもの変わってしまう。年が行けばなおのことその気持ちは強いものになります。



同窓の流れ 大河の流れとなっていくまでも

同窓会会長 開発好博
21期生・昭和48年卒

たればこそと思います。また、今回の記念に「月寒丘ひまわり基金」を創設しました。現役の生徒の、若者らしい目で世界を見たいという思いや真摯に挑戦することに少しでも応援したいという基金。これも同窓会として母校を応援することだと考えたからです。

月高の第一期生は全日制定時制をあわせてわずか63名だったとのこと。地域に高校をという地元の声に応える形で開校された我が母校卒業生は、いまは様々な分野で活躍しています。はじまりは、まさに谷間の滴りのようなものだったものが、今は大河のようになったということです。

今年の三月第六八期の卒業生三二九人を同窓会に迎え、同窓生はのべ二万七〇〇〇名に迫ろうとしています。人数においても大河そのものなのです。

さて、このたび同窓会の役員を大きく衣替え。十年間ぶりに井筒和幸会長から、引き継ぐことになりました。多くの先輩のみなさんの思いを胸に今後とも取り組んでいきたいと思ひます。

最後になりましたが、日頃お世話になっている平田嘉宏校長様、鈴木副校長様、佐々木、佐藤両教頭様、川村事務局長様はじめ多忙中、創立70周年祝賀会協賛会の関係の皆様にもお礼申しあげます。

母校のますますの発展と同窓会員の皆様のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。挨拶といたします。



創立七十周年を迎えて

校長 平田嘉宏

同窓会の皆様方には、日頃から本校の教育活動に対しご理解と多大なご協力をいただき、厚く感謝申し上げます。

本校は、今年度創立七十周年を迎え、記念事業が挙行されました。その際、同窓会の皆様方には、私が今年度着任する以前の企画の段階から、井筒前同窓会会長のもと大森精力的に準備をされ、創立七十周年記念事業協賛会の手により、無事に創立七十周年記念式典と「創立七十周年記念祝賀会及び第四十二回同窓会大懇親会」が執り行われたことに、衷心よりお喜び申し上げます。

特に、井筒前同窓会長と開発同窓会会長におかれましては、本校同窓会及び創立七十周年記念事業協賛会の中心メンバーとして大変活躍されました。井筒前会長は、十一月まで同窓会長として、かつ、創立七十周年記念事業協賛会長として、式典における挨拶はもとより、七十周年を記念して復活させたピアノを誰でも演奏できるストリートピアノとして活用するなど、七十周年に華を添える活動もなさっておりました。開発会長は、記念式典の準備の段階から、多彩なアイデアをご提供され、記念事業をよりよいものへと導いておられました。

式典は、第一部では生徒の司会のもと、厳粛な雰囲気の中、第二十二代本校校長で現北海道教育委員会委員の山本伸弘様からご祝辞を頂戴したことは本当に嬉しいことでありました。また、全日制・定時制の生徒

会長がそれぞれしっかりと挨拶をした姿が大変印象に残りました。第二部では、四十四期卒業の竹森巧さんと阿部浩貴によるお笑いコンビ「アップダウン」と本校生徒とのトークによる進行のもと、第一部とは雰囲気が一転して、ダンス部、マンドリン部、吹奏楽部、書道部などがパフォーマンスを繰り広げ、最後はアップダウンのライブで締めくくりました。生徒のパフォーマンスとともに、それを後押しする会場の生徒の声援が場を大変盛り上げていたと思います。また、会場への通路には美術部のディスプレイが彩りを加えていました。後日行われた祝賀会は、同窓会大懇親会とともに開催され、大変充実した、そして和やかに月高を祝う会となりました。

こうした式典や祝賀会の様子は、リニューアルした同窓会のホームページに掲載されております。同窓会の担当の方のご尽力に感謝申し上げます。

振り返ってみると、今年は何年にもなく、本校にとって同窓会の皆様との結びつきの濃い一年でした。皆様と式典準備に追われていた日々が懐かしく思い出されます。

本校としては、今後も同窓会の皆様のご理解とご協力のもと、次の十年二十年に向けて、力強く歩みを進めてまいります。

今後とも同窓会がますます活性化し、同窓の皆様方の拠り所となることを切に祈念いたします。



創立70周年記念式典を終えて

記念事業協賛会会長・同窓会顧問 井筒和幸

14期生・昭和41年卒

本校は昨年、令和元年に創立70周年を迎えることができました。

月寒の丘に母校が産声をあげたのが昭和24年。まだ戦争の傷跡が色濃く残る時代です。月寒は歩兵第25連隊の兵舎が並んでいて、外地からの引揚者で町が大きく変貌した頃と聞いています。

戦後の教育制度改革は月寒の地にも及び、教育熱心な地域の方々の強い思いを受け定時制一学級からの開校でした。

こうして70周年を迎えられたのも本校の発展を支えて頂いた多くの皆様のお力添えの賜物です。

令和元年10月5日カナモトホールに於いて北海道札幌月寒高等学校創立70周年記念式典を挙行政致しました。おかげさまで盛会裏に式典を終えることが出来ました。様々なご支援を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

創立70周年記念事業協賛会は、記念事業「月寒丘ひまわり基金」を創設しました。大きな志を持ち、向学心に燃え、自らの殻を破って何かに挑戦し、将来はそ

の経験を生かして社会に貢献しようとする札幌月寒高校の在学を資金面で支援するものです。月高生が、ひまわりのように明るく、大きく、活動的な夏がよく似合い、周囲を幸せにするような人物になってほしい、という願いを込めての命名です。我々大人の心を揺さぶるような熱い志と行動力、そのチャレンジの経験を将来に生かして社会に貢献する強い意志を持つ、月高生の挑戦を楽しみに待っています。

式典の一週間前「70周年の札幌月寒地域に恩返し」との見出しで、ひまわりを描いたストリートピアノが複数の新聞紙上で大きく取り上げられたのは幸運でした。母校の記念行事を卒業生などに新聞で広く知らせる結果となりました。

式典第1部は平田嘉宏校長から式辞が、道教育委員会委員山本伸弘様より祝辞を頂戴致しました。全日、定時生徒を代表して細谷さん戸井田君の挨拶も心に響く立派なものでした。第2部は文化部を主体としたパフォーマンスの披露です。

節目の年に在学している幸せに感謝し、現役生が主体となり、同窓生、保護者とともに月高70周年を祝います。44期同窓生アップダウンの総合司会で書道部、吹奏楽部、マンドリン部、ダンス部等が若者らしい力強い発表をしました。舞台と会場が一つになり、笑いと歓声に包まれてその場に幸せな共同体が出現しました。

過去の周年式典もそれぞれ思い出深いものですが、今回は在校生を主体に生徒の心に残るものになりたい、との私達協賛会の強い思いが報われてホッとしています。

最後になりますが母校が創立してからの幾星霜に思いをはせ、ご支援を頂いた地域の皆様、教職員、同窓会、PTAの皆様へ心より感謝しお礼申し上げます。

本校が皆様と尚一層の連帯を図りながら益々発展していくことを願っています。



70周年の札幌月寒地域に恩返し

ピアノは河合楽器製作所(浜松)が1952年に製造。札幌月寒高が第1期卒業生を送り出した年で、ピアノは同校にはほぼ同じ歳月を歩んできた。井筒さんによると、中央区の老舗酒屋「つるま蔵鶴サリヒステーション」(南1西5)が十数年前にこのピアノを取得。ずっと前から壊れた状態で、井筒さんが修理しようとしたが費用がさむため断念。そのまま店内に置かれた。つるま蔵は4月閉店し、ピアノは井筒さんが引き取った。

井筒さんは今月、白石区の食卓アート「ビッグハウス白石店」(令和通3)の南沢洋店長(48)から「ストリートピアノを店に置きたい」と相談を受けた。南さんの中学年の長女がピアノを弾いており、ピアノの調律をしているのが井筒さんだった。札幌月寒同窓会会長でもある井筒さんの脳裏に引き取ったピアノが真っ先に浮かび、「母校の70周年に合わせ、地域還元の仕事として体悟。ピアノの弦を巻くほど鍵盤を磨く間が

がえったピアノの鍵盤をたくさんと明るい音色が響く。同窓生と和太鼓などの演奏を務める亀田厚彦さん(64)に「中央区」に頼み、ピアノに書き添ひまわりを描いてもらった。札幌月寒高近くにはかつて旧陸軍北部軍司令部があり、兵舎も多々建っていた。戦後は樺太などから引き揚げてきた多くの人がなだかなみに住んだ。そんな住居だわの「地域に学校がほしい」という願いを書真による49年、同校は生まれた。井筒さんは「学校を生んだ地

域への恩返し強い気持ちを「再生作業に当たった」という。生まれ変わったストリートピアノは28日前日、ビッグハウス白石店で初披露される。10月末まで店に書き、午前6時から午後6時まで自由に弾いてもらう。11月以降は常態に貸し出す予定。井筒さんは「ピアノもまた弾いてもらえば癒やされる」と話す。問い合わせは井筒さん090・8371・8584へ。

ストリートピアノ設置 OB井筒さんから再生

きょうお披露目

札幌市清田区のピアノ調律師井筒和幸さん(71)が、母校の札幌月寒高校創立70周年を記念し、67年前に製造され壊れていたピアノを、だれもが自由に弾ける「ストリートピアノ」に仕立て直した。28日、白石区の食卓アートでお披露目する。(津野慶)





創立70周年記念祝賀会及び 第42回同窓会大懇親会を終えて

第42回同窓会実行委員長 阿部 志呂美

28期生・昭和55年卒

この度、2019年10月19日に開催された同窓会大懇親会は、母校の創立70周年記念祝賀会も兼ねた節目の催事でありました。私がその実行委員長の任を得て盛大裡に開催できた事は、私にとって大変栄誉な事で、準備に奔走頂いた同窓会役員、及び当番幹事の皆様へは大変感謝致しております。

実行委員長の任を得たこの機会を捉え、参加された同窓生皆様の心に残るワンシーンを何か演出できないものか、と臆心の末に思い付いたのが乾杯の挨拶を英語で行う事でした。当日は傘寿を過ぎた28期生の恩師、吉田育夫先生をお迎えて、心のテンションは上がり、挨拶の畔には壇上で喝采を浴びる我が身を想像しながら登壇しました。が人生思い通りにならないという古今東西、不変の真理を図らずも体現致しました。英語のその評価であったようです。

1度ならず今回、投稿の機会を得ましたので同窓生の皆様へあらためてご挨拶致します。

Ladies and Gentlemen.
We celebrate the 70th anniversary memorial year of the Tsukisamu high school, and the bright future of alumni association, and reviving the nostalgic memories of high school days.
Let's make a toast to them.

All right everyone.
Cheers.

(ご来場の皆さん、月寒高校創立70周年とそして同窓会の輝かしい未来と、そして今蘇る懐かしい高校時代の思い出を祝い、乾杯します。ではよろしいですか、乾杯。)

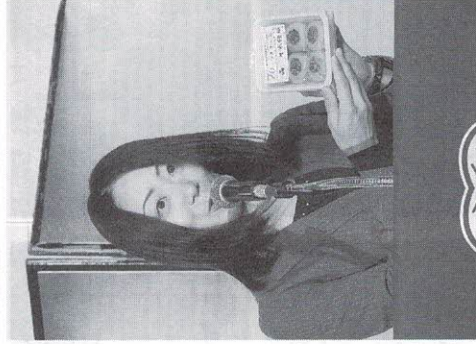
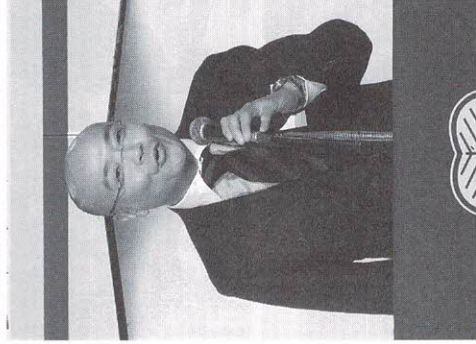
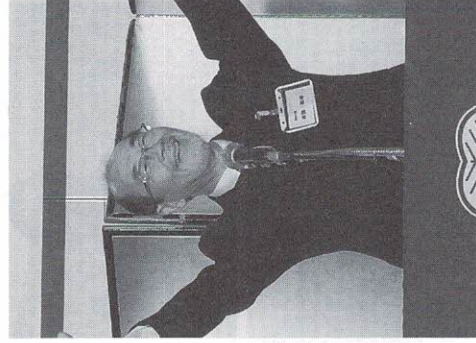
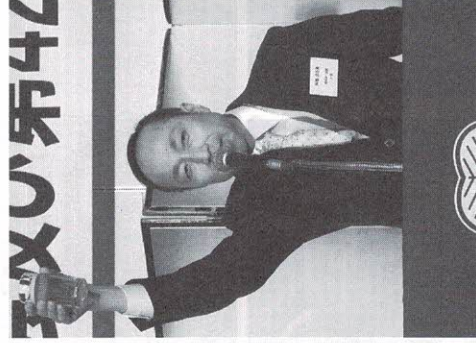
この挨拶が英文として成立しているのか怪しげですが、かつて、今は昔の月高生の知性溢れる個性のひとつとして同窓会史上に存在、記録されても宜しいのではないかと思います。外国語で乾杯の挨拶を試みる同窓生は、前にも後にも出て来ないと思いますが、別な形であっても月高同窓生の個性を、同窓会さらには月高在校生へ、我が分身へエー

ルを送るつもりで残しておく事も大事ではないかと私は強く思います。

在学当時より長年月寒に住み、地域の公職、例えば町内会や消防団や商店街の役員などを務めると、月高出身の方々と遭遇する機会が多くあります。同じ母校を持つもの同士が四季に移ろう学び舎や街を行きかう在校生の姿、メディアに登場する月高の話題などの話を始めると、口を出るのはやはり愛着に満々たる言葉です。今後も月寒に住み続ける私は、同じく月寒に住む同窓生の方々と事ある毎に月高への愛着を深めていくのではないかと思います。

在学当時の逸話や武勇伝の思い出は同窓生の皆様と同様、数多くありますが、その思い出を苗代にして、将来に向けさらに新たな思い出を作り上げていく、そんな喜びもこれから得られるのではないかと期待しております。

最後に本誌面を提供して頂いた、同窓会関係者の皆様へ厚く御礼申し上げます。有難うございました。



パウハラで幹事に(笑)

第42回同窓会副実行委員長 藤内 実

38期生・平成2年卒



卒業後、札幌から離れてしまったこともあり同級生とは疎遠になっていましたが、野球部の全道大会の試合を見に行った円山球場で同期のキャプテンと再会。それがきっかけで同級生との集まりに誘われるようになり、キャプテンとの再会がなければ同期の中では行方不明のまま人生を終えていたかもしれません。そして前回の2009年の同窓会に参加。卒業以来20年ぶりに再開する同級生は、高校時代と全然変わっていない人から見る影もなく変わり果ててしまった人まで実に様々。20年という時の流れの優しさや残酷さをまざまざと思い知らされたのが前回の同窓会でした。前回は何もせずただ参加しただけ、受付に余興にと奔走する同期の幹事にはただただ頭が下がるのみ。おかげでその同窓会は楽しく過ごすことができました。

そして今回、それは2018年の10月に催された、野球部でお世話になった松沢先生を囲む会での出来事。1期上の平元さん(現・同

窓会の幹事長)から、「来年はお前らの代が当番だからな。お前幹事な!」と言われたのがそもそもの始まり。卒業してから30年近く経っていましたが、野球部での上下関係は薄れることなく続いていたのです。同じクラスだった奴にさえ覚えてもらっていないなど、目立つ存在でなかった私に幹事が務まるのか?前回の幹事の存在感が大きすぎたので不安でたまりませんでした。幹事会に折に触れて参加してくれた同級生や、前回幹事として活躍していた同級生の助けもあり、どうにか大役を果たすことができました。幹事をやってみて有難かったのは、同窓会の準備で一番大変な案内の発送準備に、8人もの同級生が集まってくれたこと。楽しかったのは、連絡を取り合ひり合ひり私への印象が、不審者から同窓会の幹事へと変化するさまを観察できたこと。嬉しかったのは、参加してくれた同級生がみんな楽しんでくれていたこと。幹事をやって良かった!と心から思えた瞬間でした。

月高OBというだけで親近感が湧いたり、月高のジャージを着ていた女の子についていって声をかけてしまうなど、



卒業してから月日が経てば経つほど郷愁の念とでもいうのでしょうか、月高への思い入れは強まるばかりです。皆さんにも高校時代の思い出が懐かしく感じられる日が間違いなくやってきます。そんな思い出を辿る手伝いをしてくれるのが同窓会なのです。現在野球部の監督として活躍中の花田先生は私が3年生の時の1年生、そして定時制に赴任された太田先生は私が2年生の時に世話になった先生、と嬉しい再会ができたのも同窓会での繋がりがあってこそ!

さて、皆さんも同窓会の存在に興味を湧いてきたのではないのでしょうか?同期との繋がりを絶やさずにいるだけで同窓会の誘いはやっできます。たったこれだけで将来の楽しみが増えるのです。繋がっておいで損はないですよ!



北海道札幌月寒高等学校 創立70周年記念祝賀会及び第42回同窓会大懇親会

同窓会と同期会、そして先生方

第42回同窓会実行委員 小田島 教 幸

28期生・昭和55年卒



豊平神社の宮司さんも、
福住寺のご住職も、月寒高
校の卒業生だったのですね！

これは、当日配布された
総会資料巻末を見ての感想
です。なかなかお参りに行
く機会はありますが、国
道三十六号線の車窓から境
内を眺めるたびに、これま
でとは少々違う親しみを感じ
るようになりました。

私たち二十八期生は、四
年に一度の同期会を開催し
ています。二〇〇二年一月
一五〇名が卒業後初めて集
いました。不惑の歳ともい
われる四〇歳になった時の
ことです。その後 サッカー
ワールドカップが開催され
る年のお盆時期に集合し、
二〇一八年には五回目を教
えました。

昨年集まったばかり、と
いう理由もあったのでしょ
うか、今回の同窓会への出
席は三〇名にとどまりました。
ただ、速く関東・関西
方面から駆けつけてきた方
も多くいて、この時期だけ
ら参加できたよという声も
ありました。さらに、何と
いっても、一年前に瑞宝小

綬章の叙勲を受けた吉田育
夫先生(当時は一組担任兼
学年主任)に、八〇歳を過
ぎても元気なお姿でご出席
いただいたことは、自慢げ
に胸を張りました。

同期会が“ともだち”で
あるなら、同窓会は“つな
がり”や“縁”という関係
でしょうか。ふとした会話
で相手が同窓と知った時は
思わず顔がほころ
びます。HTBの
若い女性記者も、
すながわスイート
ロード「ナカヤ」
の店主も、皆さん
共通して「月高で
すよ!」と胸を張っ
て母校を答えます。
誇らしげな気持ち
で「私も!」と応
じるところに、今
回幹事を頑張れた
理由があったと思
います。

井筒会長をはじ
め、開発幹事長、
平元事業部長(い
ずれも当時)を中
心とした役員の方
々に支えられ、
世代を超えた方々
と、母校のお役に
立てたことは楽し
いひと時でした。
月寒高校の開校以



北海道札幌月寒高等学校
創立70周年記念祝賀会及び第42回同窓会大懇親会

来、これまで多くの方々が
この同窓会組織をつないで
きたから今がある、改めて
そう感じる事ができました。
ありがとうございました。

最後に、月寒高校の事務
局の先生方、遅くまでの幹
事会にいつもお付き合い
いただき感謝申し上げます。
平田校長先生をはじめ月高
の教職員の方々は、いつま
でも卒業生を大切にされて
いることを、新しく同窓会
会員になる第六十八期卒業
生の皆さんへお伝えします。



第42回同窓会を終えて

第42回同窓会実行委員 船迫 純一
48期生・平成12年卒



月寒高校を卒業してから二十年が経ちました。卒業してから同期で集まる機会には少なく、各クラスごとに集まることはありましたが、大きな集まりは一度あったくらいでした。十年ごとに当番幹事を行っていることも知らない状態で、どれくらいの人が集まるかなど心配なことが多いスタートとなりました。

今回幹事を引き受けることになったのは、野球部の先輩からの誘いでした。卒業してから興味で続けてきた草野球で、先輩と会う機会が何度もあり誘われました。学年のつながりだけでなく、先輩との関係も一つの縁だと考えお手伝いしてみようという気になりました。同じ高校というだけで、多くの人と接点があるのだと考えるようになったのも同窓会の目的の一つなのかなと思いました。

さて、幹事の仕事の多くは同期のパイプ役とこの作文になります。48期は前年度以前も参加者が少なかったため、メンバーを集めることに苦労しました。まず

は、連絡の取れる友人に声をかけ、幹事を引き受けてもらい、協力してもらいました。数人の幹事で400人への連絡は大変で、今回はラインを利用し、グループを広げていきました。だんだんとグループがつながり、幹事会の中で昔の卒業アルバムを見ながら高校時代の話で盛り上がるなど忙しい中でも楽しむことができました。

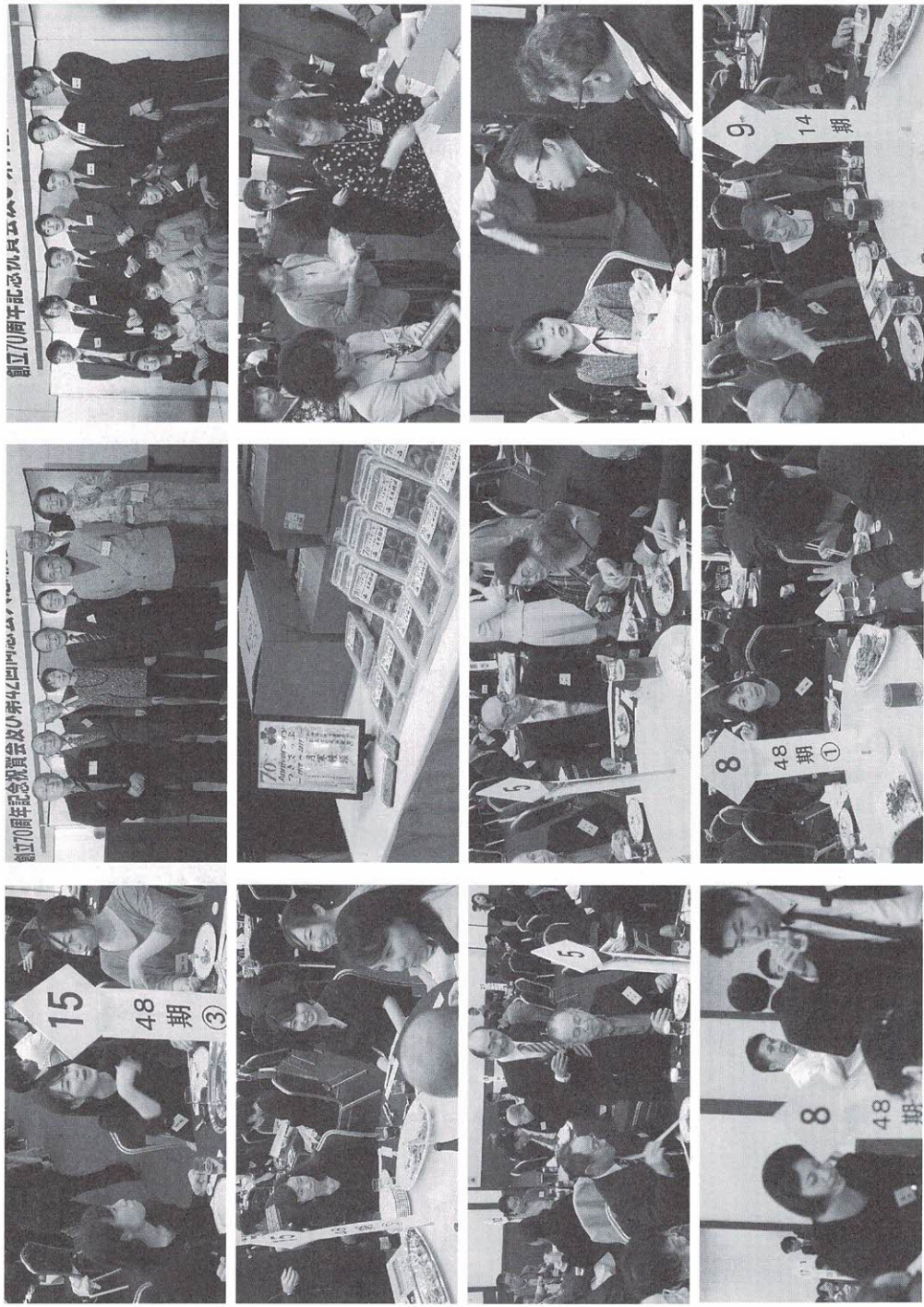
当日を迎え、同期二十数名と先生方6名が参加となりました。同期も参加しましたが、何よりも先生方が多く来てくれたのがありがたかったです。学生生活を振り返ると、恩師との思い出というのは外せないもので、昔話に花が咲き楽しい交流の時間となりました。同期生一同、先生方に改めて感謝いたします。

同窓会を終え、今までは仲の良い数人と会えていれば良いという気持ちでいました。しかし、久しぶりに同期と会ってみると、楽しかった高校時代の記憶がたくさんよみがえり、二十年以上ぶりと思えないくらい盛り上がりました。人生38年生きてきた中では、たったの3年間ですが、高校生活の思い出は濃密な時間だった

と感じることができました。最後になりますが、今年度の卒業生のみなさん卒業おめでとうございます。これから進路でばらばらになると思います。自分たちもそうでしたが、大学進学や就職していくと、高校の仲間で「また集まる」という時間や気持ちが薄れてきます。それは、次のステップに行くために必要なことでもあります。しかし、年齢を重ねて人生に迷ったり、大きな決断をする時に、相談することができるのは高校の友達だと答える人は少なくないと思います。それくらい16歳〜18歳の3年間は大変なものです。そこで出会えた仲間との縁を忘れずに、これからの人生を過ごしてください。



北海道札幌月寒高等学校 創立70周年記念祝賀会及び第42回同窓会大総朝会



15 48期 ③

創立70周年記念祝賀会及び第42回同窓会大総朝会

創立70周年記念祝賀会及び第42回同窓会大総朝会

14 48期 ②

14 48期 ②

14 48期 ②

9 48期 ①

9 48期 ①

9 48期 ①

8 48期 ①

8 48期 ①

8 48期 ①

引退！

同窓会顧問 古内 一枝

14期生・昭和41年卒



「井筒会長と共に引退します。」と言言、月寒高校同窓会の役員を退任いたしました。

母校月寒高校70周年を節目として楽しかった活動に終止符です。

振り返ると同窓会活動に関わるきっかけは昭和55年頃、先輩から同窓会の会券を預かり同期の仲間を誘って参加した事でした。二次会へ向かうタクシーの中で「私たちが幹事になって、14期同期会をやりましょう。」と。同窓会参加から同期会が誕生したのでした。

2期菊池清会長、2期佐藤昭男会長、6期桜井英達会長、14期井筒和幸会長とご一緒に活動のお手伝いをさせて頂きました。母校の50周年、60周年、そして今回の70周年、と特別なことは何も出来ませんが、どのようにしたら同窓会への参加者が多くなるか、母校の為に何が出来るのか、等々課題をみつめて仲間を取り組んで来ました。

初めて同窓会の役員会に

参加した頃は、卒業生で学校の事務職員さんの佐藤さん、川口さんには大変お世話になりました。会報の原稿依頼から発送に到るまで、会計や会への問い合わせ等々、殆んど頼りきりでした。

学校の理解もいただけて大変ありがたかったです。

50周年の頃は月寒高校出身の先生達が多くなり、周年行事は先生方の力によるものが大きかった感がありました。

60周年を迎えるあたりから『せっかく役員を引き受けたので、会議に出席するだけでなくたくさんの仕事を与えて下さい』との発言が有り、意見を重く受け止め皆が参加し汗をかけるような役割を決め、責任を持って各々の部署がやりがいを求めて活発に動き始めました。そして今があります。期待しています。

おかげ様で同窓会が毎年開催され、参加目標人数を300名揚げる年もあり、当番幹事の方には「参加して良かった」「引き受けて良かった」との感想が毎年多くいただいています。

卒業生への同窓会入会式には10年後、20年後、30年

後、40年後には同窓会当番幹事になります。とお伝えしています。

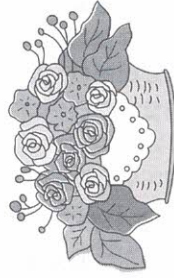
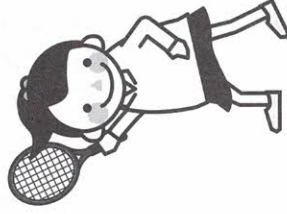
引退を共にした同期の井筒会長が大切にされて来たこと。それは「同窓会の役割は当番期を引き受け同窓会に参加し、そこから同期会、クラス会へと繋げる事」。それが目的であり目標です。

令和2年10月15日、私達14期は同期会で札幌に集まります。

母校、札幌月寒高校同窓会の更なる発展をお祈りいたします。

楽しく活動させて頂き、ありがとうございました。

感謝！



母校 月寒高校に赴任して

札幌月寒高校教諭 大坂 厚志

29期生・昭和56年卒



定年まであと数年という時期での月寒高校への異動はとても複雑な感じでした。現在までいくつかの高校で勤務して参りましたが、やはり母校ですからこれまでの高校とは違う感じを受けております。校舎も自分が高校生頃のものがそっくり残っておりますし、自分のいたホームルーム教室はパソコン教室になっておりますが、存在しております。確かに古くなっており時間の流れを感じます。しかし、こうして今自分がこの校舎に居ると自分が高校生だった頃の記憶が思い出され、目の前にいる高校生を昔の自分と重ねて見てしまいます。当時習った先生はほとんどが年配の方でしたが、今、私がおの年齢になっている。その昔、「現代文」の山崎先生は、「1時間立つて授業するのが辛いので座って授業をさせてもらおう」と仰っていたが、今ならその気持ちわかります。さすがに私は座らなくても大丈夫ですが、気持ちは十分に分かるようになりました。

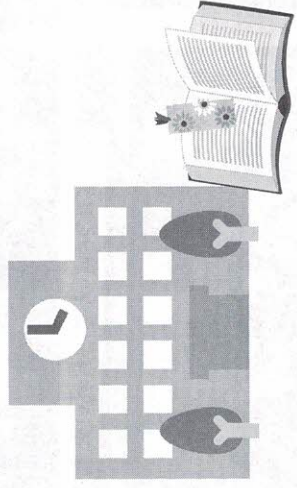
月寒高校での私の担当は、

普通教科「情報」です。もともと「理科」教員としてやって参りましたが、月寒高校では担当教科が変わることになりました。今までは科目「物理」を主にしておりました。その延長上にコンピュータがあつて、趣味でパソコンの組み立てをやっており、普通教科「情報」の教員免許も習得しました。

普通教科「情報」Ⅱ（イコール）「コンピュータ」ではないのですが、大きな部分を占めることは間違いないと思います。また、新学習指導要領では、普通教科「情報」の中に「プログラミング」が単元として設定され、「すべての高校生が学ぶこと」としています。世の中はどんどん変わってきており私が高校生の時にはこんなに変わるなどとは考えようがありませんでした。身近に携帯が普及してSNSで個人が情報発信できるようになりました。その携帯は、通信機能がありインターネットにつなげることができるミニコンピュータです。私も今はスマートフォンですが、使いこなせているとはいえません。逆に使い方について生徒から教わることさえあります。

スマートフォンを支える技術はわかりませんが、使いこなせていないという所が悲しいところでは。

時代はどんどん変わり、なくなる職業あり、新しく生まれる職業もあり、これからの高校生には激変する社会が待っています。そんな中、私は月寒高校の生徒にどんなことができるだろうかと考えてしまいます。自分を振り返りつつ、月高生に望むことは高校時代に自分の目標なり夢などをはっきりと自覚し、全力で頑張ること。世の中にはどんな職業があるのか、あるいは自分は何をやりたいのか、そのためにはどんな進路をとったらよいか、そのお手伝いができればうれしし、それが私の目標だったりします。





大選暦お祝い会

26期同期会 代表 小竹 知子
26期生・昭和53年卒



「昭和に生まれ、平成を生き、そして令和元年、私たちは選暦を迎えました。」これが昭和53年に月寒高校26期生として卒業した私たちの「大選暦お祝い会」のキャッチフレーズでした。選暦の同期会を開催した令和元年は、同時に月高創立70周年記念の年とも重なり一層感慨深いものとなりました。

さて私ことになってしまい恐縮なのですが、私自身と月高との関りは非常に深く、平成19年・20年の2年間（長男の在学時）にはPTA会長を務めさせていただき、またそれをきっかけに同窓会の役員（現在は顧問）となり、さらには平成18年にお引き受けした学校評議員は数えると今年15年目となります。現在も月寒に暮らし、登下校する月高生の姿は日常の光景ですし、月寒公民館を会場に開催されている『親子ふれあいコンサート』は月高吹奏楽部やマンドリン部の生徒たちの演奏を地域の方々と共に毎年楽しみに聴かせていた

だいています。大げさに聞こえるかもしれませんが、月高は私の人生に大きな影響を及ぼしており、「同窓」というその二文字に繋がるものをこれからも大切にしたいと思っています。

3年前の同窓会では、卒業後40年の最年長当番幹事期として光栄なことに初の女性実行委員長、昨年の選暦同期会では大会長を務めさせていただきました。とは申しまでも同窓会も同期会も私は名ばかりの大役で、裏方役を担ってくれ盛會裡に導いてくれた幹事の皆さまに心からの感謝を申し上げます。

同期会には二次会を含め、総勢112名の方に出席をいただき、また様々な事情で出席は叶わなかったもののその代わりにメッセージを寄せてくださった方は50名近くいらっしゃいました。令和元年（2019年）が自然災害が多発した年でもあったため、会の冒頭では台風19号をはじめ被害に遭われお亡くなりになられた方々へ黙とうを捧げました。その後は月高生であった往時に一気にタイムスリップ！卒業後それぞれが歩んだ

人生の一端を語り合い、各テーブルを行き交いながら会場いっばいに笑顔の花が咲きました。余興は特に用意しませんでした。各クラスごとにステージに登壇し、代表者から面白可笑しい思い出話を含めたクラス紹介をしてもらい集合写真の撮影、それが終わると今度は一年生の時に同じクラスだった者同士が登壇し、また写真撮影、さらには最後に出身中学校が同じ者同士登壇し、またまた記念撮影、と「同期」を強く意識すると共に絆が深まる非常に楽しい会であったと思います。それら進行の一切をとりしきつてくれたり組の木本さん（旧姓）、カメラマン役を一手に引き受けてくれた秋田谷君、お二人には、欠席された方にも当日のクラス写真を郵送してくれるなど、ホスピタリティ溢れる幹事を最後まで務めてくれたことに、そして万障を繰り合わせ出席してくれた26期の同期の皆さまにも心からの感謝とお礼を申し上げます。また、いつの日か校歌と一緒に歌えたらと心から願っております！その日まで皆様お元気で！



月寒高校26期・大選暦お祝い会

北海道札幌月寒高等学校同窓会会則

第1章 総 則

- 第1条 本会は北海道札幌月寒高等学校同窓会と称し、事務局を本校におく。
第2条 本会は次の会員をもって構成する。
1. 正会員 本校卒業生及び本校に在学したもので役員会において承認されたものとする。
2. 名誉会員 本校の現職員及び旧職員とする。
第3条 本会は会員相互の親睦を図り教養を高め、あわせて母校の発展に寄与することを目的とする。
第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事項を行う。
1. 会員相互の連絡
2. レクレーション
3. 会誌及び会員名簿の発行
4. 母校の後援
5. その他の目的を達成するために必要と認められる活動

第2章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
1. 顧問 若干名
2. 名誉会長 1名
3. 会長 1名
4. 副会長 若干名
5. 幹事長 1名
役員は次の通りとする。
1. 名誉会長は本校校長を推す。
2. 会長、副会長、幹事長、副幹事長及び会計監査は役員会において正会員中より選出(総会)において承認する。
3. 書記は会長が委嘱する。
4. 幹事は、卒業各期より各クラス1名を選出する。
5. 顧問は、会長が委嘱する。ただし少なくとも1名は現職員とする。
役員の仕事は、会長を代表し、会務を統轄し役員会を主催する。
1. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるときは、その職務を代行する。
2. 副会長は、本会の会計をつかさどる。
3. 会計は、本会の会計を監査する。
4. 幹事長は、幹事会を主宰する。
5. 副幹事長は、幹事会を補佐する。
6. 会計監査は、本会の会計を監査する。
7. 書記は、本会の庶務をつかさどる。
8. 幹事は、幹事会を構成し、また、当該クラスの会員の連絡等にあたる。
第6条 役員の仕事は次のとおりとする。
1. 会長、副会長、幹事長、副幹事長及び会計監査の任期は2年間とする。ただし、再選は妨げない。

第3章 機 関

- 第9条 本会の目的を達成するため次の機関をおく。
1. 総 会
2. 役員会
3. 幹事会
4. その他
第10条 総会は本会の最高決議機関である。
毎年、原則として年1回定例総会を開催する。
臨時総会を開催することができる。
1. 会長が必要と認められた時。
2. 幹事の3分の1以上、もしくは正会員の10分の1以上の連署による要求があった場合。
第11条 総会において、次のことを行う。
1. 会務の報告
2. 役員改選
3. 決算報告及び予算案の審議
4. 事業計画の審議
5. その他必要事項の審議
第12条 役員会は、総会に準ずる決議機関として開催する。
第13条 役員は次のことを行う。
1. 総会提出議案の作成
2. その他会長から委任された事項の審議
第14条 幹事会は次のことを行う。
1. 会長から委任された事項についての審議
2. その他、必要な事項の審議
第15条 会長または役員会は、必要と認める機関を設けることができる。
第16条 役員会が主催する活動は、必要と認められた場合、出席正会員の過半数でこれを決する。
第17条 可任回数、議長の決するところによる。
第18条 本会の経費は、会費、寄付金、及びその他の収入をもってあててやるものとする。
第19条 本会会費は正会員1名につき5,000円とし、入会の際にこれを納入しなければならない。
第20条 役員会が必要と認め、さらに総会がこれを承認した場合に臨時に会費を徴収することができる。
第21条 本会の会計年度は、9月21日より翌年の9月20日とする。
第22条 会計細則は別に定める。

附 則

- 本会則は昭和56年8月23日より施行する。
平成4年8月21日会則一部改正
平成15年10月24日会則一部改正
平成20年10月18日会則一部改正
平成29年10月3日会則一部改正

ご協力ありがとうございました

文化体育後援会(全日制)・後援会(定時制) 助成及び郵送協力費にご賛同いただいた方の名簿です。
平成31年3月~令和2年1月受付分

(敬称略)

Table with 6 columns: 卒業年, 氏 名, 卒業年, 氏 名, 卒業年, 氏 名. Lists names and graduation years of donors.

平成30年度 同窓会事業報告

[2018年10月20日～2019年10月19日]

Table with columns: 年月日, 区分, 内容. Lists various events and activities from October 2018 to November 2019.

平成30年度 同窓会会計収支決算書

収入の部 [令和元年9月30日現在] (単位:円)

Income Statement Table showing 前年度繰越金, 会費, 雑収入, 雑収入, 合計. Total income is 6,881,310.

支出の部 (単位:円)

Expense Statement Table showing 通信費, 記念品代金, 印刷費, 広報費, 記念事業費, 慶弔費, 予備費, 記念事業積立金, 役員会運営費, 合計. Total expense is 6,681,310.

記念事業積立金収支決算書

(単位:円)

Memorial Fund Statement Table showing 前年度繰越金, 本年度利息, 本年度積立金, 本年度支出, 本年度現在高. Total ending balance is 7,991,303.

令和元年度 同窓会事業計画

1. 会員相互の連絡をより緊密にする。

- ① 大懇親会には、より多くの会員に出席してもらおうようにする。
・案内範囲の拡大(定時制、幹事期への案内を検討する)
・その他過去に幹事になった方々や新会員(新幹事)になった方々への対応を検討する。

② 同窓会報『つきさっぷ』第36号を発行し、広く配布する。

- ③ 社会会報『つきさっぷ』第36号を発行し、広く配布する。
・授与する。
・選考方法、選考基準などから検討を開始する。

④ 上記の①から④について効果的、効率的に行うため同窓会会員名簿の充実を図る。

- ⑤ 名簿のデータの電子化を促進する。
・総会の運営を円滑にするため、当番幹事を決め会議を開催する。(次年度は29期・39期・49期・59期)

⑥ 同窓会公式ホームページの維持・内容の充実を図り、次世代の同窓会会員との情報共有拠点となるようにする。

- ⑦ H P のリニューアルと更新作業に取り組む。
・事業の計画を迅速、効果的に実施できるよう役員会組織を改編し、役員会を柔軟に応じて随時開催する。

2. 母校への後援を行う。

- ① 文化体育後援会(全日制)・後援会(定時制)への助成を行う。
・全国大会・国体、またはそれに準じる権威のある大会に出場する在校生の活動を助成する。
・壮行会にてお渡しする。

③ 「月寒丘ひまわり基金」審議会に参加する。

3. 同窓会入会式を挙行し、新会員(卒業生)へ記念品を贈呈する。

- ・記念品を検討する。

4. その他

- ① 同窓生として繋がることのできる同窓会を目指し、活動の充実を図る。
② その他

会計監査報告

平成30年度北海道札幌月寒高等学校同窓会会計について、経理並びにその関係書類について監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

令和元年10月11日

会計監査 野田靖子

令和元年度 同窓会会計収支予算書

(単位:円)

Budget Statement Table showing 前年度繰越金, 会費, 文体・郵送助成金, 雑収入, 合計. Total budget is 6,630,430.

支出の部 (単位:円)

Budget Expense Statement Table showing 通信費, 記念品代金, 助成金, 印刷費, 広報費, 記念事業費, 慶弔費, 予備費, 記念事業積立金, 役員会運営費, 合計. Total budget expense is 6,630,430.

記念事業積立金予算書

(単位:円)

Memorial Fund Budget Table showing 前年度繰越金, 本年度利息, 本年度積立金, 本年度支出, 元年度残高. Total ending balance is 8,492,003.

同窓会役員

Table listing school alumni officers (役員) with names, positions, and terms. Includes a list of new members (*新任).

事務局だより

同窓会事業に、母校の文化・体育後援会への助成、同窓会報の発行があります。この事業につきまして下記の事をお願い申し上げます。
1. 文化体育後援会(全日制)・後援会定時制助成金
昭和57年度の総会で決定し、会員の皆様のご援助、ご協力により母校へ助成しています。
母校の文化・体育面での部活動は、着実に成果をあげております。
ご支援有り難うございます。
2. 同窓会報「つきさつぶ」の配布と原稿募集
幹事の方で同期の会員に配布したい、同期会やクラス会の予定があるので会報が必要であるなど会報の希望がありましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。

今後ともご協力お願い申し上げます。
援助金 一口 三千円
郵送協力費 一口 二千円
郵便局で振り込みの場合、払込通知票を使用します。
番号 027720-3-111901
加入者 北海道札幌月寒高等学校同窓会

電話での問い合わせに注意下さい!

同窓会事務局では、名簿作成等の為の電話での問い合わせはしておりませんのでご注意ください!!



旧校舎 (昭和53年頃迄)

令和元年度教職員の異動

転入者

【全日制】
校長 平田 嘉宏 (教育庁高校教育課より)
主幹教諭 古谷 雅彦 (札幌月寒高校より)
教諭 小森 眞一 (札幌月寒高校より)
教諭 大坂 厚志 (岩見沢西高校より)
教諭 池本 美起哉 (長沼高校より)
教諭 高田 志朗 (岩見沢東高校より)
教諭 高田 尚寛 (小樽桜陽高校より)
【定時制】
教諭 菊地 美千 (小樽桜陽高校より)
教諭 太田 剛夫 (千歳北陽高校より)
教諭 豊田 宏尚 (札幌琴似工業高校より)
専門主任 工藤 武 (札幌南陵高校より)

転出者

【全日制】
校長 清澤 智克 (定年退職)
教諭 古谷 雅彦 (札幌月寒高校主幹教諭)
教諭 高橋 州一 (定年退職)
教諭 片桐 敏彦 (岩見沢西高校へ)
教諭 木戸 一朗 (退職)
教諭 太田 尚寛 (期間満了)
【定時制】
教諭 坂本 一 (女満別高校高校教頭へ)
教諭 島谷 洋子 (定年退職)
教諭 中村 令光 (岩見沢東高校へ)
主任 工藤 武 (旭川東高校へ)

北海道札幌月寒高等学校

同窓会幹事



第68期 (令和2年卒)

【全日制】

- List of members for the full-time division: 一組 石川 大悟, 二組 寺本 弥優, 三組 廣田 恵子, 四組 工藤 知暉, 五組 山崎 さら, 六組 坂東 なつみ, 七組 傍土 靖文, 八組 青山 悠太

【定時制】

木村 利照
どうぞよろしく申し上げます。

会報編集委員

- List of members for the newsletter editing committee: 佐々木 裕一, 大坂 厚志, 花田 幹, 櫻井 絵夢, 梅原 紳一郎